

老人クラブに入って生き活きと活動してみませんか

募集 仲間と一緒に
楽しく活動しませんか

高齢者が地域を基盤に社会貢献活動や生きがいづくり、健康づくりを行う自主組織です。他にも友愛活動や伝承活動・世代間交流、趣味・レクリエーションなども行います。会員となることで、人と会う機会が増え、地域に新しい仲間ができることや、他の会員とのスポーツや体操を通して、健康の維持・増進につなげることができます。対象は、概ね60歳以上の人です。申込方法など詳しくは、お住いの町内の老人クラブまたは市老人クラブ連合会(☎543-7334)へお問い合わせください。



☎ 長寿福祉課 ☎537-5679

春の陶芸体験講座の参加者募集

募集 陶芸を体験してみませんか

河原内陶芸楽習館で茶碗や湯飲みなどの比較的簡単な作陶体験を行います。定員は、各10人で多数時は抽選。対象は、市内居住の人です。作陶料は、530円(1人当たり)で、親子で1つの作品を作る場合は1人分で可。申込みは、はがきに氏名、郵便番号、住所、年齢・学年、電話番号、希望日(第2希望まで)を記入し、3月1日(月)〈必着〉までに社会教育課(〒870-8504 荷揚町2-31)へ。2月15日(月)から市ホームページ電子申請フォームでも申込可。



- 開催日時：**3月24日(水)・26日(金)・27日(土)・28日(日)**
 (午前の部)午前10時～正午
 (午後の部)午後1時～3時
 ※28日(日)は午前の部のみ。
- その他：体験当日には作品は持ち帰りできません。仕上げ・焼成の後、河原内陶芸楽習館まで取りに来ていただきます。

☎ 社会教育課 ☎537-5649

春季火災予防運動を実施します

イベント 火の用心を心掛ける行動と
意識を高めよう

3月1日(月)～7日(日)は春季火災予防運動週間です。防火に対する意識を高めてもらうため、一日消防局長として大野タカシ氏(タレント)による消防訓練や火災予防啓発活動などを行います。



大野 タカシ氏

- 日時：**3月1日(月)** 午前9時30分～
- 場所：トキハわさだタウン(大字玉沢)
- 出演：市消防局、市消防団

☎ 消防局予防課 ☎532-3199

おおいた大友学オンラインセミナー・戦国史シンポジウム
in BVNGO(豊後)「戦国大名と鉱物資源」

イベント 鉱物資源と歴史について
学びませんか

大友・島津・毛利・豊臣・徳川ら諸大名が活躍した時代において、硫黄や銀という鉱物資源は非常に貴重なものでした。そんな鉱物資源の価値と意義について、硫黄側パネリスト・銀側パネリストの対戦方式で、研究者が最新の情報をもとに解説します。オンラインで視聴する場合は、市ホームページからライブ配信をご覧ください。事前申込みは不要で、視聴は無料です。



また、会場での観覧も予定しています。定員は、200人で先着順(申込み1件につき4人まで)。入場料は、無料です。申込みは、はがきまたはファクス、Eメールで、参加者全員の氏名、代表者の住所・電話番号を2月15日(月)～22日(月)〈必着〉に文化財課(〒870-8504 荷揚町2-31 ☎536-0435 ✉bunkazai2@city.oita.oita.jp)へ。

- 開催日時：**3月7日(日)** 午前10時30分～午後3時30分
- 場所：コンパルホール1階 文化ホール
- 内容：基調講演「戦国大名と鉱物資源-硫黄大名vs.銀大名-」
 第1ラウンド「硫黄と銀の国際環境」
 第2ラウンド「硫黄山・銀山の考古学」
 第3ラウンド「サルファーラッシュ・シルバーラッシュの産地と社会構造」

☎ 文化財課 ☎537-5682

市民図書館からのお知らせ

市民図書館(室)は
蔵書点検整理のため休館します

期 間：3月1日(月)～3月12日(金)

休館施設：市民図書館(J:COM ホルトホール大分内)、コンパルホール分館、鶴崎・植田市民行政センター各図書室、各地区公民館図書室

各校区公民館での予約本の受け取りもこの期間中はできません。

※休館中の本の返却場所…J:COM ホルトホール大分北側入口、コンパルホール分館入口、鶴崎・植田市民行政センターの「図書返却口」、各校区公民館の「図書返却ボックス」



☎ 市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している新刊を紹介します。



スマイルショップ

きたむらさとし：作 岩波書店

ためたおこづかいを手に握りしめ、初めてのお買い物。いろんなお店で何を買おうか迷うべく。ところがぼくは人とぶつかり、お金を落としてしまいます。しょんぼりして入ったお店はスマイルショップ。ぼくと一緒にわくわくどきどきしませんか。

人生のレシピ

神崎 繁：著 岩波書店

哲学者パスカルの言葉「人間は考える葦である」も、この本の著者によれば「人間は考える足である」らしいのです。そんなダジャレのような解釈にはじまり、本格的な論文を通り抜け、さらりと読めるエッセイまで。いろいろなレシピが満載です。



人権・同和教育シリーズ 507

人の生き方を考える



今度は自分が…

先日、離れて暮らす父から電話がありました。父が、春から自治会の役員を引き受けると言うので、「定年退職したら、したいことがあるって言うていたじゃないか。少しゆっくりしたいんじゃないの？」とわたしの思いを話しました。

父は「したいことは色々あるけれど、それが今は役員なんだ。お隣さん、同居している家族が転勤になつて、春から一人暮らしになるんだって。この前、息子さんから『母を応援します』って声を掛けられて、それで決断したんだ」と言うのです。

わたしが、お隣さんのためにわざわざ役員にならなくても…と言おうとしたとき、父は「おばあちゃんのこと覚えてるか？」と尋ねてきたのです。わたしは「あの頃はまだ、他県に住んでいたから、盆正月には必ず帰省したよな。入院したときは、心配で週末の度に帰ったし、父さんはよくやったよ」と言いました。

すると父は「そう見えていたんだな。自分も当時、自宅に戻る前には『母をお願いします』って、近所を回ったよ。中には、自分の親なんだから…とか、長男なのに…と言う人もいたよ」とつぶやき、「でも、そのときに自治会の役員さんから『大丈夫よ。わたしたちがいるから』と言葉を掛けてもらってね。その言葉にどれほど勇気づけられたか…。だから、今度は自分の番なんだ」と続けました。

知らなかった父の思いを聞き、わたしが「支えてくれた人がいたんだな…。ただ、無理だけはするなよ」と伝えると、父は「心配してくれて、ありがとう。今でも支えてもらってたよ。きのうれしさを覚えているんだよ。だから、できることを少しずつやっていきたいんだ。いつか自分も、近所の人に世話になる日が来るかもしれないから」と言いました。

年を重ねてもなお、自分にできることは何かを問い続ける父を誇らしく思うとともに、わたしにも今できる何かがあるのではないかと考えていました。

わたしたちは、相手の痛みや悲しみ、喜びなどを自分のこととして感じるができます。「もし自分だったら」と相手の立場に立つて考えることが、そのスタートとなるのではないのでしょうか。